

## 令和7年度 第2回岩見沢市総合戦略等推進委員会 議事録（要旨）

### ● 日時、出席者等

日時	令和8年2月25日（水）10時30分～11時45分
会場	岩見沢市役所4階 委員会室1・2
出席委員等	委員11名、特別委員2名
傍聴者	0名
事務局等	事務局5名

### ● 議事録（要旨）

会議次第	協議内容
<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 協議事項</p> <p>第3期岩見沢市総合戦略の取組みについて</p>	<p>●令和8年度総合戦略事業の概要について</p> <p>【事務局説明】</p> <p>（委員） 令和8年度に総合戦略への新規登載された事業、もしくは今後検討している事業はあるか。</p> <p>（岩見沢市） 現時点で新規登載事業はない。ただし、新聞報道もされた醸造用ブドウの補助金については、令和8年度から新たに取り組む事業であり、醸造用ブドウやワインの生産量増加、ワインツーリズムによるブランド確立化など、地方創生へと繋がっていくものであるため、今後、登載について検討していく予定。</p> <p>（委員） タブレット端末での学習が進む中、児童館はWi-Fi設備がないところもあるが、公共施設へのWi-Fi設備は戦略事業の中に入っているのか。</p> <p>（岩見沢市） 戦略事業には入っていない。担当課へ情報共有したい。</p>

(委員)

子育て世帯のニーズや教育環境の変化への把握にも努めてほしい。

●岩見沢市の人口動態について

【事務局説明】

(特別委員)

社会動態の分析は、短期間では結論付けられるものではないが、30代と14歳以下の層がプラスに転じているのは良い傾向。子育て世代での評価が高まることで、人が人を呼ぶことも期待できる。人口減少が避けられない中で、減少幅の緩和をしていくための具体的な施策を今後も検討してほしい。働く場所の問題で、若者が札幌圏へ流出し、札幌圏からも首都圏へ流出している。流出を食い止めるために、働く場所の整備が大切と考える。

●国における地方創生の取組みについて

【事務局説明】

●若者会議について

【遠田委員、齋藤委員説明】

(特別委員)

若者会議は非常に良い取組み。例えば高校生に対して、大学試験などと取組みを連動できると、教育大学や岩見沢に行きたいという若者が生まれる可能性もある。早い段階でコミュニケーションをとることで、若い世代が岩見沢に住むことを選択したり、将来的に岩見沢に関わり続けてくれることも期待できるので、そういった視点も持ちながら継続してほしい。

(委員)

外国人の年代人口も把握できるとよい。共生のまちづくり推進事業には、今後、外国人との共生も含まれてくるのか。

(岩見沢市)

外国人については、年代別の分析はできていないが、人数でいくと、令和6年の約360人から令和7年には約480人に増加している。国籍別では、これまでベトナムが多かったが、ミャンマーが一番多くなる等の変化が生じている。現行の戦略事業には、外国人をターゲットとした事業はないが、多文化共生という視点からも今後は検討が必要と感じている。

<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	<p>(委員)</p> <p>産業の付加価値化が重要。岩見沢は農業が強みであるが、高齢化や後継者の問題があるため、道外から来てもらうような取組みも必要だと考えている。ワインの取組みはとても良いが、ワインだけではなく、その他の加工業やグルメファンドといった観光の取組みと一緒に市外にアピールしてほしい。</p> <p>●令和8年度空知総合振興局独自事業について情報提供 【空知総合振興局 地域創生部長説明】</p> <p>(委員)</p> <p>空知でワイナリーの数が増えており、ワインの生産量だけでなく、質も向上している。農業高校の取組みで、醸造用ブドウの絞りかすを牛の餌にする事例もあり、副産物の活用や就職先候補といった面でもワインには期待できると感じている。</p> <p>室蘭線の活用については、市や商工会議所でも取り組んでいる。室蘭線をより多くの人に知ってもらうことで、岩見沢や空知全体の盛り上がりにつながる。</p>
--------------------------	---